

武漢の封鎖解除、中国の経済正常化が豪ドルの追風に Insights from UBS Asset Management

ポイント

- ・ 4月8日、2ヵ月ぶりに武漢の封鎖解除、今後中国では経済正常化の動きが加速へ
- ・ 4月7日、RBAは金利据え置き、追加緩和への示唆はなく、金利面からの豪ドル安圧力は後退
- ・ 豪ドルにとって、中国の経済正常化や国内での感染抑制、景気刺激策などが追い風に

武漢の封鎖解除、中国経済は正常化へ

- ✓ 中国政府は4月8日、新型コロナウイルスの感染が最初に確認された武漢の封鎖を解除しました。1月23日に武漢を出発する航空便や高速鉄道などを止めて以来、2ヵ月半ぶりとなります。中国は中心都市の武漢の封鎖解除によって、経済正常化に向けて全面的に動き出したこととなります。
- ✓ 新型コロナが中国各地から世界に広がる中、厳格な封じ込め措置がとられた湖北では3月に入り新規感染者が2桁以下に減少。ピーク時は連日2,000人を超える感染者が確認されていた武漢でも、3月以降は新規感染がほぼ食い止められた状況となっています。
- ✓ 新華社電によると、武漢では4月4日までに一定規模以上の工業企業のうち97.2%が稼働を再開。サービス業は93.2%、卸売・小売・宿泊・飲食業は95.8%が再開したと報じています。
- ✓ 中国政府は、武漢の封鎖解除とともに、北京を除く国内航空路線の運航を再開しました。新型コロナウイルスの感染拡大の防止から経済の正常化に政策の軸を移す狙いがあると推測されます。今後、中国では経済正常化に向けた動きが加速すると見られています。

RBAは金利据え置き、豪ドルは反発基調続く

- ✓ 武漢の封鎖解除の前日4月7日、RBA（豪中銀）は理事会で政策金利を過去最低水準の0.25%で据え置くと発表しました。声明文ではこれまでの金融緩和策や流動性供給により市場が最悪期を脱したため、今後債券購入額や資金供給を削減する可能性を示唆した一方、追加緩和については示唆しませんでした。
- ✓ 豪ドル相場においては、RBA理事会で追加緩和が示唆されなかったこと、それに伴う豪長期金利上昇が追い風になっています。

■豪ドル相場の年初来の推移



豪ドル相場で底入れの動き

- ✓ 2020年の豪ドルは、世界的な新型コロナウイルス感染拡大をうけた世界景気後退、およびRBAの量的緩和政策開始を含む追加緩和を事前に織り込んだことで、2月下旬から3月19日にかけて急落し、対米ドルで0.5510ドル、対円で59.90円の安値を付けました。それぞれ02年、09年以来の歴史的な低水準を見たこととなります。
- ✓ 3月下旬以降の豪ドルは、世界株価や銅など資源価格の反発と共に、足元では対米ドルで0.61ドル台、対円で66円台へ反発を見せています。欧米そして豪州でも感染のピークアウトの兆しが見られ始めていることも好感されています。
- ✓ 更に豪ドル底入れの動きが進む可能性も出ていません。新型コロナウイルスの中国での感染拡大がほぼ終息し、武漢の封鎖解除などを追い風に経済の正常化が想定よりも早く進みそうなことや、RBAが金融緩和を前倒しで進めてきたことで、当面は金利面、金融政策面からの豪ドル安圧力が後退している点が指摘されています。
- ✓ 豪州では金融面だけでなく、財政政策でも他国より早い対応をみせています。豪政府は3月12日に第1弾(176億豪ドル)、22日に第2弾(661億豪ドル)そして30日に第3弾(1,300億豪ドル)と矢継ぎ早に大規模な景気支援策を発表。19日にはRBAの追加緩和策に合わせて150億豪ドルの小規模金融機関・貸付事業者向け支援策も発表しています。これらの総額は豪GDP比12%に達しています。
- ✓ これらの豪政権による新型コロナウイルス対策は世論で評価され、モリソン首相の最新支持率は53%と11ポイント上昇しました。特に、第3弾の1,300億豪ドルが貸金補助の「ジョブキーパー」(救済パッケージ名)に充てられることが好感されたようです。豪州での新型コロナによる死者は4月8日時点で42人と日本の98人の半分以下に抑えられています。

- ✓ このように豪州では欧米と比べ新型コロナウイルスの感染拡大が抑えられており、経済依存が強い中国での経済正常化への期待が高まるなど、豪ドルを取り巻く投資環境は、急速に改善しています。一方、当面発表される豪州及び中国の経済指標は、大幅な悪化が見込まれ、引き続き慎重に経済データやイベントなどを見極める必要があります。

今後の豪ドルの見通しは？

- ✓ 豪ドルは、すでに2月に想定した最悪のシナリオを織り込んだ水準に達した可能性があります。中国での予想以上の封じ込め成功などを受け、シナリオの上方修正が当面続くとみられます。
- ✓ 更に4-6月期のどこかで、世界に先駆け中国実体経済指標の持ち直しが確認され、世界株価や資源価格が反発基調に入れば、豪ドルも20年後半にかけて本格的な上昇基調に入るシナリオが期待できます。

■今後の豪州・中国の注目イベント等

4月14日	中国貿易統計(3月)
16日	豪3月雇用統計
17日	中国GDP(第1四半期)、固定資産投資・鉱工業生産・小売売上高(3月)
21日	豪RBA理事会(4月)議事要旨発表
29日	豪CPI(第1四半期)
30日	中国PMI(4月)

※ 中国全人代の開催、4月下旬か5月の予定

5月5日	豪RBA金融政策理事会
7日	中国貿易統計(4月)
8日	豪RBA四半期金融政策声明(SoMP)発表
13日	豪賃金指数(第1四半期)
14日	豪雇用統計(4月)
15日	中国固定資産投資・鉱工業生産・小売売上高(4月)
19日	RBA理事会(5月)議事要旨発表
31日	中国PMI(5月)

※ 5月豪20年度予算案発表は10月6日に先送り

出所：リフィニティブ、各種報道

上記のデータは過去のものであり、将来の動向を示唆、保証するものではありません。

商号： UBS アセット・マネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第412号

加入協会： 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

本資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、信頼できると考えられる情報をもとにUBSアセット・マネジメント株式会社によって作成されておりますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。本資料に記載されている内容・数値・図表・意見・予測等は、本資料作成時点のものであり、将来の市場動向、運用成果等を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。

© UBS 2020. キーシボル及びUBSの各標章は、UBSの登録又は未登録商標です。UBSは全ての権利を留保します。